
世界中で一番幸せだったよ

アリス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界中で一番幸せだったよ

【Nコード】

N0662L

【作者名】

アリス

【あらすじ】

誰にもいた好きな人

一生で一番燃えあがるような恋をしたひと

忘れられないひと

忘れられないのじゃなくて忘れたくない

そんな恋のお話です。

幸せをくれた彼へ

誰にでもあるありふれ話だと思う

でも、私にとっては大切な一生忘れたくない気持ち。忘れてしまえば切なくなることもないのだけれど。でも、忘れてしまうのは寂しい。

彼を好きになったこと

くだらないことで笑っていたこと

たいしたことじゃないのにけんかしたこと

初めて愛するって意味がわかったこと

愛される責任と喜びを教えてくれた

胸がつぶれてしまうほど傷つけられたこと

2日間も化粧ができないくらい目がはれるまで泣かされたこと

裏切られるむなしさを教えてくれた

自己中でいつまでも子供で

思い続けるほどにたいした男でもなかったと思う

でも、でもね、

世界中で一番幸せだったよ

誰に否定されても心から言えるよ。幸せだったって。出会えてよかったって。

これから新しい恋をして家族を作ってあたしがおばあちゃんになつたところにこの気持ち覚えているの？

みんな忘れていくの？

あたしは、忘れない。忘れたくない。

3月3日

ジ
リ
リ
リ
リ
リ
リ
リ
リ
リ
リ
ー
ー
ー
ー
ー
ー
！
！
！
！
！
！

『うるさい。』
『寝ぼけ眼で目覚ましを消す。』

ベットからでるとつめたい空気が、さらに布団を恋しくさせる。

・もう3月なのになあ。異常気象だよこのさむさ！

なんていいながらも仕方なく顔を洗いに行く。

どんなことがあっても朝は普通にくる。

朝が来ると 普通 にしたくをして 普通 に仕事にいかなければ
ならない。

それが大人だから

昨日あたしは仕事のお休みをとってある場所に行った。

3月3日 毎年あたしは決まって同じ場所に行く。

そこへ行くのはもう4回目。一人で訪れたのは昨日を含めて2回。

後の2回は昔の彼氏、敬吾と行った。

3月3日は敬吾の誕生日で、19歳の彼の誕生日の時に初めて訪れた場所。

2人だけの秘密の場所

地元の駅から電車で30分。県を越えてつくのは『つづ』っていう田舎。

海と山しかないようなところ。：少し最近はカラオケやもできたみたいだけと。

駅から海沿いにあるいて5分、柵を越えて線路を横断して海側にいくと、まさかの沖縄のようなビーチがある。

そこに岩でできた天然のオブジェがあり、なんとも『秘密の場所』チックなわけである。

見つけた瞬間に3月3日はここで過ごすことが決まった。

3月3日だけでなく、気に入ってよく記念日や、特別なことがあるたび訪れた。

2年前の1月、彼と会えなくなった。

理由ははっきりしないが、21歳の男だから心変わりだと思っている。

何度もメールしてみた。

電話もかけてみた。

2年前の3月1日にはアドレスが使われていなかった。

電話もつながらなかった。

連絡も取れないまま3月3日に秘密の場所へ行った。

：絶対、きてくれる。：連絡もないのにそう思ったから。

現れるはずもなく、あたしはむなしく半日をそこで過ごした。

：どうして？無視ってどういうこと？なにかあったんじゃないの？
好きだったのはあたしだけ？：

理解できないまま涙も出なかった。そんなわけない。

1週間くらいたったころには、振られたってことをやっと認めてからは泣き続けた。

月日がたち、半年たつころには好きな人もできた。22歳の女ってそんなもの。まだまだ恋愛盛り。

友達も『あんな最低男はやく忘れんちゃい!』ってよく出会いを作ってくれた。

でも、3月3日はなぜか秘密の場所に向かってしまう。

音信普通になるくらいこっぴどく振られたのに、彼に会いたくなる。会えなくても、振られた理由を見つけないっていうのもある。

3月3日だけは、21歳の敬吾の彼女の気分で彼が現れるのを待ってしまう。

そんなもんで、昨日のあたしは完全に22歳のころの切ないあたしだった。

だけどそんなことおかまいなしに朝はあたしを 普通の日常に戻す。

24歳、働き盛り、いつもの日常が始まる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0662/>

世界中で一番幸せだったよ

2010年12月30日04時20分発行